文化情報誌

たわわ

2023 No.119

「**たわわ**」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。

好きなことを仕事にする

「好きなことを仕事にする」
ペインター　オノルイーゼさん

ペインターとしての原点は、中学生の時に見た平塚市桜ケ丘の壁画でした。自分の体の範囲では全て見られない大きな絵を初めて見て、絵を浴びるような感じがして衝撃を受けました。学校の行き帰りに通る度に壁画の中で絵が変化しているように見え、日々を楽しくさせてくれました。そこに描かれていた花の絵はとても綺麗でとにかく格好良くて、「壁画を描けたらいいな」と思いました。子どもの頃は、絵の仕事といえば漫画家くらいしか思い浮かばなくて、でも漫画家にはなりたいと思えませんでした。そんな私のターニングポイントは20歳の時に訪れます。

母子家庭で育った私は家も貧乏で、高校生の時は大学に行って「普通の人になること」が人生の最大目標でした。だから奨学金を借りて、アルバイトして自分で学費を払って大学に行きました。初めて平塚を出て、世界は広くて自由なんだなと感じた矢先に、母親が亡くなってしまいました。

母親が亡くなって、もっとこうすれば良かったとか後悔も当然ありましたが、それよりも自分に付いていた鎖みたいなものが切れた感じがしました。死をすごく近くに感じて「私も明日死ぬかもしれないなら、好きなことをしよう」と思って、アルバイトを終えて空を見上げた時に、「ああ自由だな」と思ったのをすごく覚えています。

それからは、ライブペイントでクラブイベントなどに参加し始めましたが、そのうちに「私は壁画がやりたい」と思うようになりました。でも、どうしたら壁画ができるのか当時は分かりませんでした。そんな頃、借金をしてロサンゼルスとサンフランシスコに行きました。そこで再び壁画に出会います。その大きさやクオリティ、歩けばどこでも壁画があるのに感動して、「やっぱり壁画が描ける人になりたい」と思いました。日本に戻ってきてもアルバイト生活は続き、兄からも「さっさと普通の職に就け」なんて言われましたが、余計に「自分がやりたいことで生きたい」という悔しさが沸いてきて、がむしゃらに絵を描いていました。

ある時、テレビCMに出演したことで大きな反響があり、「壁画をしてみないか」と声をかけてもらいました。最初の壁画は、とあるオフィス内の壁に何人かのアーティストで絵を描く仕事でした。そこでは20歳年上の先輩とかもいて、壁画の書き方を教えてもらっていました。そうしたたくさんの仲間との出会いが自分の成長に繋がったと思っています。

その後、壁画を描く仕事が増えて、ハワイや台湾など海外で壁画を描く機会もありました。そして、2016年には、平塚市のシティプロモーションの一環でビーチパークのボードウォークと湘南平のレストハウスにフォトスポットとなる絵を描かせてもらいました。その後も、湘南平やビーチパークの壁画、平塚駅の七夕ラッピング、ナンバープレートや婚姻届けのデザインなども描かせてもらい、2022年にはひらしん平塚文化芸術ホールの2階にも七夕イラストが飾られました。

ひらしん平塚文化芸術ホールのイラスト

ほかにも、ららぽーと湘南平塚や、つるみね幼稚園、平塚信用金庫須賀支店でも壁画作成やワークショップをしました。子どもたちと一緒に描くことで、ペインターという仕事を知ってもらうことができたのがとても嬉しかったです。

平塚信用金庫須賀支店の壁画

平塚は小学校6年生から高校生まで一番多感な時期を過ごしたまちなので、今も平塚出身と言わせていただいています。平塚に帰ってくると「ああ帰ってきた、この景色、この空気いいなあ」といつも思います。そんな地元平塚に少しでも貢献できているなら嬉しいなと思います。

これからは、海外での壁画作成にもっと挑戦して、より大きな作品も描きたいです。そのことで自分の価値が上がれば、お世話になった皆さんにも恩返しが出来るかなと思います。また、ワークショップなど子どもや若い子に向けた活動にも力を入れていきたいです。「好きなことを仕事にする」ことを若い子たちに胸を張って見せていきたいし、伝えていきたいです。いつか、自分がそうだったように、自分の壁画で誰かに影響を与えられるようになれたら本当に素晴らしいなと思います。

【プロフィール】
LUISE ONO（オノルイーゼ）

1989年生まれ。神奈川県平塚市出身。“成長”をテーマに、植物の生い繁る様や波の流れ、自然界に溢れるエネルギーを有機的な線で表現している。

2010年、クラブイベントでのライブペイントにてキャリアをスタート。店舗内外への壁画や企業・行政とのコラボレーションを経て、壁画フェスティバルPOW!WOW! JAPAN・TAIWAN・HAWAII・LONG BEACHへ参加、現在は積極的に大型の壁画制作を行っている。

平塚市内では、ビーチパークや湘南平、平塚駅前広場地下道、平塚駅構内エスカレーター、ららぽーと湘南平塚、平塚信用金庫須賀支店の壁画等を制作している。

巡って学ぶ平塚学入門⑦

「駒ヶ滝」

平塚市の西側をなす高まりである大磯丘陵には、大小の滝がいくつも存在しています。中でも平塚三大滝と呼ばれているのが、尼ヶ滝、駒ヶ滝、霧降の滝で、そのうちもっとも落差が大きいのが、土屋の駒ヶ滝です。

「駒ヶ滝」

駒ヶ滝は、土屋惣領分において雨乞いの儀礼の場であり、昭和40年代まで行われていたとされています。その滝をつくる地層は、雨ならぬ火山灰が降ってできた関東ローム層です。関東ローム層は、火山からもたらされた火山灰などの火山噴出物が、陸地に堆積してできた地層です。とくに、駒ヶ滝がかかるのは、主に箱根や富士（古富士）などの火山噴出物が堆積してできた吉沢ローム層とよばれる約10万年前の地層になります。

駒ヶ滝で雨乞いの儀式に用いられた倶利伽羅不動

吉沢ローム層が堆積した時代の箱根火山は、現代のイメージとは異なり、一定の期間ごとに爆発的な噴火を頻繁に繰り替えす活発な火山でした。

駒ヶ滝がかかる地層には、厚さ十～数十cmほどの横縞がいくつも見られますが、これらは箱根の爆発的噴火により、空に舞い上がった火山噴出物が堆積してできた層なのです。もし現代に、このような火山噴出物の層を堆積させるような大噴火が起こったら、おそらく首都機能はマヒしてしまうでしょう（幸い、箱根火山は約６万５千年前以降にその活動様式を変え、爆発的な噴火は現在まで起こっていません）。ほんの数万年前まで、平塚周辺は、箱根の火山噴火にたびたび晒される荒涼とした大地だったのです。

（平塚市博物館学芸員）

ひらしん平塚文化芸術ホール 主催事業レポートVol.1

令和４年３月26日に開館したひらしん平塚文化芸術ホールで実施している、様々なジャンルの事業の様子をお届けします。今回は、令和４年度の事業から「あなたを平塚で音楽人に♬」シリーズをご紹介します。

このシリーズは、ひらしん平塚文化芸術ホールの音楽アンバサダーで作曲家の加藤昌則さんがプロデュースするクラシック音楽公演です。毎年、室内楽２公演とオーケストラ１公演を５年間開催し、「平塚でクラシック通（つう）になってしまおう！」という企画です。

令和４年度は４月29日に成田達輝さん（ヴァイオリン）と笹沼樹さん（チェロ）を迎えてのピアノトリオ、12月18日に三浦文彰さん・水谷晃さん（ヴァイオリン）、川本嘉子さん（ヴィオラ）、佐藤晴真さん（チェロ）による弦楽四重奏、そして２月５日には下野竜也さん指揮、東京都交響楽団演奏によるオーケストラ公演を開催しました。

作曲家の人柄や逸話、楽曲の魅力や楽しみ方について、軽快で楽しく分かりやすい加藤さんのお話を聞きながら進むプログラムは、素晴らしい演奏と合わさった平塚オリジナルのコンサートとして大変好評で、既にこの企画のファンになった方も大勢いるようです。これからも続く「あなたを平塚で音楽人に♬」シリーズをぜひお楽しみください！

初めての音楽人へ
天才作曲家だって人（ピープル）だ！

小粋な音楽人へ 弦楽四重奏特別編！

素敵な音楽人へwith東京都交響楽団

リトアニアに行く前に…
「ミカロユス・チュルリョーニス」

平塚市は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会でホストタウンとなったことをきっかけに、リトアニア共和国と交流を続けています。今回は本市国際交流員のサウレさん（リトアニア共和国・カウナス市出身）が、リトアニアで有名なアーティストを紹介します。

リトアニアの最も有名なアーティストの１人である、ミカロユス・コンスタンティナス・チュルリョーニス（1875－1911）について紹介します。チュルリョーニスは、短い生涯の間に、それぞれ約400点の絵画と楽曲を遺しました。

チュルリョーニス

まず、チュルリョーニスの絵画は世界を「大きなシンフォニー」としてとらえ、音楽のメロディーとリズムをモチーフとしていることから、鑑賞者が絵画を観る時にその音楽をイメージできると言われています。このため、よくアブストラクトアート（抽象絵画）に勘違いされますが、アイデア、人物、ストーリーが象徴的に描かれているため、象徴主義として認められています。また、リトアニアの伝統をモチーフに使った、リトアニアの文化の特徴を表す作品が多いです。

そして、いくつかの作品では、日本画の特徴的なモチーフが使われていて、日本の芸術から影響を受けたことが分かっています。1992年には長野県のセゾン現代美術館で彼の作品が日本で初めて展示されました。

「Sonata of the Sea: Finale」

一方、音楽家としてのチュルリョーニスはリトアニアのプロフェッショナル音楽の先駆者とされています。カノン、フーガ、プレリュード、シンフォニー等の楽曲を作っていました。また、民族の歌を集めて、編曲したり紹介したりし、リトアニア文化の復興にも尽力しました。

「Fairy Tale Of Kings」

リトアニアでは、チュルリョーニスは国民的英雄として知られています。リトアニアの困難な歴史の中で生きていた彼は、「リトアニアのために全部の作品を捧げる」という有名な言葉を残しています。

現在、彼の作品はリトアニアのカウナス市にある国立チュルリョーニス美術館で鑑賞できますので、カウナス市を訪れる際は是非訪問してみてください。

平塚市文化振興基金に御協力を

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活用されています。基金に御協力くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。　（2023.2.1～2023.5.31までにご寄附くださった方）（敬称略）

2023年2月24日　湘南ステーションビル株式会社

発行　平塚市文化・交流課　〒254－8686　平塚市浅間町９－１
電話 0463－32－2235　FAX 0463－21－9756　E-mail：bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp
令和５年（2023年）６月15日発行　　右の２次元バーコードより文化情報誌「たわわ」へアクセスできます